

Y13a **すばる望遠鏡に設置されたライブカメラによる星空配信：経緯及び教育研究素材としての可能性**

田中壺（国立天文台ハワイ観測所）、東山正宜（朝日新聞）、中島将誉（国立天文台ハワイ観測所）

国立天文台ハワイ観測所で4月から開始した「マウナケア星空ライブカメラ（すばる-朝日星空カメラ）」は、マウナケアの素晴らしい星空を日本と特にハワイの地元へ届けるのを目的として、国立天文台と朝日新聞との協力により実現したものである。毎日昼夜を問わず配信を続けており、マウナケアの素晴らしい星空を多くの方にお届けしている。高感度カメラによるリアルタイムストリーミングはマウナケアでは初めてで、世界の第一級観測所を見ても例のない、大変ユニークなものである。設置に当たっては、観測所スタッフのご支援を得ながら、管理の大変厳格なマウナケア山頂に配信設備を設置する許可を得てカメラを敷設していったが、配信に至るまでの道程は決して楽なものではなく、実現には4か月に渡る調整等が必要であった。

マウナケアの夜空の暗さにより、毎日大変多くの数の流星が観察される。多くの熱心な視聴者によって流星記録が残されているが、暗いものを省略しても100個を常に超えているという状況である。流星だけではなく、美しい夜明けの空の移り変わり、ElvesやSpriteといった珍しい放電現象、STARLINK衛星、月食に伴う空の移り変わりなど、見る人を感動させる様な、多くの科学教育・広報素材を提供してくれている。

また、運用半年の間に、流星クラスター現象（2021年5月）、ペルセウス座流星群の全く予想外の突発現象（同8月）、15p/Finlay彗星を起源とする新流星群の出現確認（10月：田中別講演参照）など、いくつかの科学的価値の高い現象も捉える事にも成功し、広報用途としてだけではなく、科学的にも高い有用性を持つことが示された。今後は市民や学生を主体とするサイエンス支援素材としての有効利用を進めたいと考えている。